

## 人・農地プラン

市町村名	集落／地域名	当初作成年月	更新年月(1回目)	更新年月(2回目)	更新年月(〇回目)
川越市	川越地域	平成29年3月			

### 1. 今後の地域の中心となる経営体（担い手）

中心経営体 8経営体（うち認定農業者 2経営体）

### 2. 地域における担い手の確保状況

担い手は十分確保されている、担い手はあるが十分ではない、担い手がいない

### 3. 将来の農地利用のあり方

取組事項	対応	
担い手に集積・集約化する	○	今後も、農業委員会農地情報などをもとに、農地の出し手と受け手の情報をマッチングさせ、農地耕作者の確保に努める。
担い手の分散錯圖を解消する	○	
新規参入を促進して、新規参入者に集積・集約化する	○	
耕作放棄地を解消する	○	
その他[右欄に自由に記載]	○	

### 4. 3についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	今後、農地の出し手情報があった場合は、農地中間管理事業の活用を検討する。
農業をリタイア・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
担い手の分散錯圖を解消するため利用権を交換しようとする人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
その他[右欄に自由に記載]	○	

### 5. 近い将来農地の出し手となる者と農地

近い将来農地の出し手となる農業者(氏名)	年齢	現状		計画 [5年後]		利用しなくなる農地面積	農地中間管理機構への貸付け希望の有無	
		経営内容(作目)	経営規模の合計(ha、頭数等)	経営内容(作目)	経営規模の合計(ha、頭数等)		農地面積	貸付時期
	才		ha		ha	ha	ha	
	才		ha		ha	ha	ha	
	才		ha		ha	ha	ha	
	才		ha		ha	ha	ha	
	才		ha		ha	ha	ha	

### 6. 今後の地域農業のあり方

今後の地域農業のあり方(地域の中心となる経営体とそれ以外の農業者を含めて)		
取組事項	対応	コメント
生産品目の明確化		川越地域の水田地帯は、小規模経営の農家が多く、後継者や担い手が少ない。近い将来耕作放棄地が増加することが懸念される。今後は、リタイア等により耕作者が不在となった農地の農作業を受託する組織の設立を検討する。また、地域の中心となる経営体を主とした意見交換の場を設け、定期的に地域の営農状況の把握及び耕作放棄地など情報共有し、担い手の確保や農地集積方法について協議していく方針である。
複合化	○	
6次産業化	○	
高付加価値化	○	
新規就農の促進	○	
その他[耕作放棄地の解消]	○	